

小田野沢地区でしめ縄づくり

9月4日、小田野沢地区の深山神社を合祀したふかやま鍵懸神社かぎかけに役員・青年会・有志、他関係各所の計27名の方々が集まり、鳥居に取り付ける“しめ縄”を作成しました。

しめ縄は、神様のいる場所(聖域)とその外を区別するためという意味で張られ、しめ縄が神の領域と現世を隔てる結界となり、その中に不浄なものが入らないようにする役目も果たしているといわれています。

小田野沢地区では、毎年秋祭りの前に青年会他関係者が神社に集まり、しめ縄を手作りし鳥居に取り付ける作業を行っています。

当日は朝の7時に集まり、夕方頃まで掛かって完成させ、力を合わせて鳥居に取り付けていました。



協力して“しめ縄”を織う様子



“しめ縄”を鳥居に取り付ける様子



“しめ縄”を取り付けた鳥居

蒲野沢八幡宮で秋の例祭が執り行われました

9月10日、蒲野沢八幡宮で秋の例祭が執り行われ、新型コロナウイルス退散を願い蒲野沢地区内を練り歩き、地区の入口4ヶ所で蒲野沢青年会 宮下久志会長が剣を振りました。

これには、疫病退散の意味が込められており、ここ数年全国各地で流行している新型コロナウイルスの早期終息を願い行われました。

宮下青年会長は「このような行いが、少しでも地域の皆さんのためになれば嬉しいです。新型コロナウイルスで、今までのように規制のないお祭りが開催できていない状況ですが、少しでも早く規制のない生活に戻ってくれたらと思っています」と話しました。



部落事務所を出発する蒲野沢青年会の方々



蒲野沢八幡宮での祈禱舞の様子



疫病退散を願い剣を振る宮下会長